



7 研修第 14 号

(令和 7 年 11 月)

発行: 宇治市乳幼児教育・保育支援センター

アドレス: nyuyojicenter@city.uji.kyoto.jp



令和 7 年度 乳幼児教育・保育協働研修通信

テーマ
『創造的な表現活動・
園の環境づくり』



令和 7 年 10 月 28 日(火)

第 14 回研修会(教育・保育の質向上分野)を
開催しました。

17 名の先生方と一緒に学び合いました。
(保育所(園)4 名・幼稚園 3 名・認定こども園 9 名・療育施設 1 名)

※ この研修通信は、園内の体制等でご参加いただけなかった皆さまにも研修会での学びの一端が伝わることを願って、研修会終了後の参加者による『振り返りシート』をもとにまとめたものです。

1. 公開保育 (講師の先生による実践)

講 師

アトリエリスタ 津田 純佳 先生

公開協力クラス

宇治市立ひがしうじ幼稚園

3 歳児 みかん組





公開保育の中で、心に残ったこと
(参加できなかった仲間に知らせたいこと)



「これは〇〇」と**答えを言わない**こと
等、子どもたちにかける言葉がけがとても
印象に残った。

保育者が何かを決めるのではなく、「どんな
形に見える?」「みんなはどう思う?」など問
いかけることで**子ども主体となる保育**
が生まれること

**子どもの言葉をたくさん見
つける視点**を持ちたい。

何かを伝える・教えることに精一杯になってしまっ
ていた**自分に**気が付いた。答えを出さなくてい
い、やり方を伝えなくていい、保育者は**自分に**
もっと自由を認めて良いのだと思った。

ゆっくり丁寧に関わる
時間の大切さ

保育者

子どもたちが自らのアイデアで次々に
発見していく姿を見て**見守ること**
の大切さを改めて感じた。

先生が**子どもと共につ
くり出していく姿勢**を
持って関わっておられたこと

素材を選び準備をすることで
**遊びや経験をより深め
られる**ことを知った。

環境構成 ・ 教材研究

一つの素材、対象とじっくり向き合う**時間
づくりの大切さ**が心に残った。

素材の選別。色や形・大きさ・手触りの違
いなどを**吟味して用意**していること

いろいろな素材を用意し**子どもたちに
選ばせる**大切さ

表現する言葉とは**言語だけ
ではない**こと

子ども

子どもたちが一つの物とじっくり関わ
って研究し**自分なりに表現する**
ことの楽しさ

子どもたちが一人ひとり**ワクワク
した表情**で素材を選び、観察
し、触り、関わっていたこと。

子どもたちが普段見ている見慣れた物へ
の興味のスイッチが入ったことに、**驚きと
新たな発見**があった。

2. 実技・講演

テーマ 『素材と出会う・感じる・生み出す』



実技や講演の中で、心に残ったこと
(参加できなかった仲間にも知らせたいこと)

発見

- 虫めがねやマイクロスコープを使って、こんな形や線、色があるんだなと発見がいくつかあった。
- 見ただけではなく、虫めがねやマイクロスコープを使うことで、更に深い所まで見え、新たな発見ができた。

体験

- 実際に実技で体験してみると見ることの楽しさが身を持って理解できました。物の見方の幅を子どもたちに伝えていきたいです。
- 木炭で描くことが初めてで楽しかったです。色々な素材の紙を実際に触って選ぶのも良い体験でした。

素材

- 単一の素材でなくても様々な素材を活用していくこと
- 様々な素材を使用することで興味が更にわいてくる楽しさ
- 一つの素材にここまでじっくりと関わったことがなく、観察しながら描くことができたこと。じっくりと観察する時間、関わるのが大切だと思った。

子ども

- 大人は子どもに一方的に正解を与える立場ではなく、子どもと一緒に学び研究していく存在であるということ
- 答えは教師が導くのではなく、子どもたちが自分で気付くことが大切であるということ
- 葉っぱやどんぐりの帽子など身近にはあるが、模様や細かい形など目には見えにくい物までしっかりと見られていなかったのも、そういったことも子どもたちと共有したいと思った。
- 一人ひとりがちがう言葉を持っているということ
絵が上手・下手とかではなく、その子はどういう思いで描いたのかということが大切である。

繋がる

- 集団で過ごすからこそその気付きやアイデアの共有が学びに繋がっていくこと
- 素材や材料を1から自分で選ぶ楽しさが、やりたいという興味に繋がっている。
- 関係性の中で学び合い、深めていくこと

たくさんの素材
を準備すること
を心がけていき
たい。

目だけでなく、
五感全てを使
って“みる”
という体験

子どもが自分で
“選ぶ”という経験
をいろんな日常の
保育の中で取り入
れていきたい。

子どもたちに「どんなに
おもしろい？」「どんな触り
ごちそう？」など普段
の会話でも発見できるき
っかけはあるため、言葉
がけを大切にしたい。

素材との出会いの
幅を広げたいと思っ
た。様々な素材を用
意する環境を大切
にしていきたい。

対話しながら
じっくりと物
事に関わる。

保育や療育で
活かしたいこと



こども一人ひとりの
気付きを共有
し合うこと・アトリ
エのような場所、
空間づくり

子どもたちが自
分で選び自分で
考えて行動でき
る言葉かけ

保育者が正解を
言うのではなく、
ヒントを出して子
どもたちの考え
を導いていくよう
にしたい。

素材となる物や紙やペ
ンなど一つのものでは
なく、たくさんの種類を
準備することで少し
でも多くの子ども
たちが楽しく興
味をもって活動
できるように
したい。

子どもが興味を
持ったものに対
してもっと探求を
していきたい。

絵を描くことは大切には
しているのだが、つい色
を使って～という風にな
ってしまっているところ
では、形などを知るため
にもペンだけ(黒色)で描
いてみたいと思う。

活動の答えを出す
のではなく、一度、
子どもたちだけで考
えて、活動する内容
に取り入れたい。